

- 「一票」自体はちりのように小さくても、「自分」の一票ではなく「みんな」の票だと考えたら、政治家達を充分制御できるものだとおっしゃっていたことが一番印象に残っています。「投票をしない人を相手にしない」ということは政治家側からしたら当たり前の感情でも、私たち一般の若者がなめられているのに変わらないと思うのでちょっとイラッとしました。身近なものに例えてもらえたりしたので、普段生活している中であまり身近に感じない「政治」について深く考えることができました。選挙に行くことも大切だけれど、その前に問題意識を持ったり、誰かと議論して意見を深くすることも大切なんだと思いました。真実を伝えたくて、それでも重要なことだと伝える姿勢がカッコ良かったです。
- 自分も四月生まれなので今年から責任を持って投票しに行かなければならないと、心から思います。
- 自分の中でこうするべきだろうと思い込んでいたことでも、勝也先生の問いかけに対して見渡してみると考えが同じ人ばかりではありませんでした。でもそれはどちらも間違っているということではできず、先生の「どちらも正解だから衝突するのだ」という言葉に納得させられました。

これから暮らしていく将来の仕組みがよりよくなるように、信用できる人を見極める目を養っていきたいと思います。
- 今までと違うような政治の講座を受けて、政治がどのようなものか、ある程度理解することができた。いろいろな例を出し議論させて全員を参加させる講義のやり方が流石だなと思った。様々な議題について話していて大体が（意見が）半分くらいに分かれて、意見を決めるのは難しいというのが実感できた。結局、人間は話し合いが大切で、みんなで決めて、みんなで意見を出すことが必要なんだなと思った。
- (投票は)「君と君の子どもの生き方を考える・決める」ことだという話を聞いて、私たちがこれから暮らやすくしていくための選択だと思いました。すべては自分の思い通りにならないとしても、今の日本の状況や自分たちの暮らしから目を背けるのは絶対違うことだと思いました。文句だけ言って行動しないのではなく、ネットで調べてみたり自分の意見に近い人に投票してみたりと、自分から行動して少しでもいい方向に向かうといいなと思います。
- 今回の講座の二択で、人それぞれの価値観があって考え方があるのだと改めて学びました。だから、自分にはない考え方を相手から吸収することで人間は成長できるのではないかと思いました。自分だけの一票では日本は変わらないかもしれないけれど、みんなの一票は日本を変えられるという言葉がすごく印象に残りました。
- 日本の若者は政治や選挙に対する関心が低い。一方で海外では若者中心にデモが行われている。自分たちももっと意見を出して若者の意見を取り入れさせていく必要があると思う。選挙という大きなくくりではなく、生命やコロナなど具体的な対策、政策などを踏まえて考えると自分の意見が持ちやすかった。

今、友達と意見を言い合ったように、もっと自分の意見を持ち、しっかりとそれを伝えることで、多数決で決まった時にも納得することができる。自分たちが安心して政治を任せられるように選挙に行くべきだ。今の政治と政治家を変えるには若者のパワーが必要だ。